

21世紀における 宗教の役割

キリスト教と同志社の展望

1. 宗教と情報化社会

2

宗教の起源

- 死者の葬送
 - 死者からの影響を抑制するための「とむらい」
 - 例: 御霊信仰(平安時代)
- 見えない世界との交流
 - テレプレゼンスへの本源的欲求



3

テレプレゼンスへの憧憬

- テレプレゼンスとは
 - 日常世界から遠く離れた場所や時間を身体的に経験すること。
 - 現代の例: テレフォン、テレビジョン、ラジオ、ビデオ、携帯電話、バーチャル・リアリティ



3

テレプレゼンスの歴史

- テレプレゼンスの起源
 - 日常世界と超越的世界の交流
 - 死者と生者の交流
 - 人間の「こころ」の深層(たましい)との交流
- テレプレゼンスを可能にするバーチャル空間
 - 祭り、教会堂など



5

過去と現在を結ぶ テレプレゼンス

- 歴史を学ぶことの意味
- 新島襄の生き様を学ぶことの意味

6

2. キリスト教の展望

7

20世紀後半の変化



8

「原理主義」とは何か

- Fundamentalist
 - 1920年代に、キリスト教保守派が進化論や近代的な聖書批評学と対決するために用いた「自称」であった。
 - イラン・イスラーム革命(1979年)以降、警戒すべきイスラーム運動に対して原理主義という言葉が転用された。

9

多文化社会における「原理」の模索

- 原理主義の原型としての宗教改革
 - 「聖書のみ」「信仰のみ」
- グローバリズムとその反動
 - 固有の文化、その核にある宗教性の強調

10

3. 同志社の展望

11

同志社の変化

現在
専任教員 約730人
学生 約27,000人

1875年
教師 2人、学生 8人

12

同志社の教育理念



13